



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
12月の休館日：7月14日・21日・28月～31日
※年始は1月5日(火)から開館します。

- 12月12日(土) 19:00～ **指定** 立川志の輔独演会
- 12月20日(日) 14:00～
第12回 ひこね市民手づくり「第九」演奏会
自由 前売1,500円(当日2,000円)
- 12月24日(木) 19:00～
指定 外山啓介クリスマス・ピアノリサイタル
◎繊細で色彩感豊かな独特の音色をもつ演奏をお楽しみください。「主よ人の望みの喜びよ」「献呈」「ヴォカリーズ」など聖夜にふさわしい曲をお届けします。
- 12月25日(金) 13:30～ **子どものためのサロンコンサート「ヴォカリーズmeetsクリスマス」**
◎グランドホールロビーで、本物の音をお楽しみください。
自由 大人500円 中学生以下無料
- 1月11日(月祝) 14:00～
ニューイヤー・ビッグバンド・ジャズコンサート
自由 一般1,500円 大学生以下500円
- 2月6日(土) 18:30～ **金亀亭第5回落語ライブ 柳家さん喬 喬太郎 親子会**
指定 3,800円 【12月10日(木)発売開始】
- 2月13日(土) 14:00～
エコメモリアルチェンバーオーケストラ演奏会
自由 一般2,500円 高校生以下2,000円 【12月1日(火)発売開始】
- 3月14日(日) 14:00～
オペラ物知り講座inひこね vol.3 蝶々夫人
自由 前売1,500円(当日2,000円)
- 3月15日(月) 19:00～
ザ・ジェイド春コンサート2010
◎オペラ界の4大スターによる奇跡のボーカル・グループが歌謡曲の名曲から、叙情歌、オリジナル曲までを歌いあげます！
指定 S席5,000円 A席4,000円 【12月5日(土)発売開始】

12月1日(火)よりインターネットでのチケット購入が可能になります。アクセス先は、<http://bunpla.jp/> クレジットカードでの決済や、セブンイレブンで引き取ることができます。

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館 12月の休館日：12月25日(金)～同31日(木)
※12月1日(火)～同3日(木)、同22日(火)～同24日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

12月3日(木)～同22日(火)
「日本の楽器・琵琶」
—井伊家伝来雅楽器から—

井伊家伝来の琵琶は29面もの多くを数えます。この中から、鎌倉～江戸時代の代表作を紹介します。



▲琵琶 銘秋風

ギャラリートーク
「日本の楽器・琵琶」
—井伊家伝来雅楽器から—

12月5日(土) 14:00～15:00
解説：本館学芸員 高木 文恵
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

幕末の大老、井伊直弼(1815～1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

12月4日(金)～同21日(月)
茶漆塗松笠壺

直弼が茶会で用いた茶器。武家茶道の祖片桐石州好みの茶器に、直弼自らの花押を入れています。



みずほ文化センター催し物
太鼓ユニット 無限 凱旋コンサート

関東地方で人気を博している彦根市出身の太鼓奏者花原兄弟が結成している太鼓ユニット無限のコンサート。友情出演として、彦根古城太鼓も出演します。
日時 平成22年2月28日(日) 14:00開演(13:30開場)
入場料 1,000円(全席自由)
発売期間 12月6日(日)～平成22年2月28日(日)
入場券発売所 ひこね市文化プラザチケットセンター、みずほ文化センター、平和堂アルプラザ彦根くらしのサービスセンター、ピバシティ平和堂くらしのサービスセンター
問い合わせ先 みずほ文化センター☎43-8111、FAX43-8112

琵琶の制作年代と伝来

現代では、琵琶という、平家琵琶や筑前琵琶などが浮かびがちですが、そのルーツをたどると、雅楽で

使う琵琶に行き着きます。これをほかの琵琶と区別して特に「楽琵琶」と呼ぶこともあります。楽琵琶のそのまた源流は西アジアと言われ、中国を経て日本へ伝えられました。

楽琵琶は一般に、全長約100センチ前後で、板を割って内部を空洞とし、表板を張った構造です。四絃、四柱で、演奏時には横に構えるのが特徴で、先の角が丸みを帯びた撥を用いて音を出します。

雅楽の楽器は、現代に至るまでほとんど形を変えていないため、姿形からのみで制作年代を推定することは困難です。加えて、音をよくするための改良も加えられ、経年の傷みの修理も行われることから、推定は一層難しくなっています。

一方で、傷んでいるからこそ年代が分かることもあります。槽の内側には、制作年や作者、修理の年や修理者などを記す銘文が書かれています。目にするのができません。接着

剤が弱って材がばらばらになったときに初めて分かるのです。もちろん、偽銘の可能性もあるため、内容は慎重に判断しなければなりません。

年および修理者までも一致するのです。

彦根藩主井伊家に伝来し、現在彦根城博物館所蔵となっている雅楽器のうち、琵琶は28面を数えます。ここでは、その中の鎌倉時代の古作をご紹介します。

この琵琶は、近年修理を終えて本来の形を取り戻していますが、彦根城博物館所蔵となった時点では材が離れていたため、銘文を目にすることができませんでした。それによると、賢意の作で、延徳元年(1489)に大藏卿なる人が修理をしたことが判明します。この琵琶に附属する書付には、銘文が書写されているほか、天野山金剛寺(現大阪府河内長野市)に伝来した琵琶と同じ作者である旨が記されています。別紙に書写された金剛寺伝来の琵琶の銘文には、建治3年(1277)、賢意の作で、長享3年(1489)6月に堺大藏卿という人が修理をしたとあります。

鎌倉時代、楽器の制作は、寺院に属する僧があたることが多かったため、金剛寺は、賢意所属の寺院または関連寺院であったとみられます。修理の状況までも同じということは、彦根城博物館の琵琶もまた金剛寺旧蔵の可能性が高いのではないのでしょうか。

この例のように、銘文や附属資料は、作品の成立やその背景、伝来伝承など、作品を取り巻く豊かな情報を提供してくれます。井伊家伝来の雅楽器が稀少なコレクションとして世に知られているのは、楽器自体の高い価値はもちろんのこと、豊富な附属資料とともに伝えられてきたことも重要な理由のひとつなのです。

(彦根城博物館学芸員 高木文恵)

賢意作の琵琶は、テーマ展「日本の楽器・琵琶—井伊家伝来雅楽器から—」(12月3日(木)～同22日(火)・会期中無休)で展示します。

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第160回